⑥「障がいを負う」について

「負う」という言葉にも論議がありました。始めはただ「障害者問題」というふうにごく事務的に考えていた面が否定できませんが、先述したように「障害者」という言葉の問題に突き当たり、「心身にさまざまな障がいを負う人々」という説明的な表現に広げましたが、いささか冗長なので、「障がいを負う人々」として、障がいの内容理解に幅を持たせました。「負う」は障がいを消極的に捕らえているという論議もあったのですが、現実の教会は（この場合、障がい者の問題を教会という宣教の場で捕らえることを考えましたので）、障がい者が障がいを負うという現実を持っているという事実認識を持とうということで、つまり教会は障がい者の問題をまだ未解決な状態に止めているという自己認識を持つという意味で、あえて「負う」にしました。いや「負わせている教会」という隠されたニュアンスもあるのです。